



新潟県高等学校野球連盟審判部会

南支部 審判委員 若山 拓矢

平成31年度 第59回全国審判講習会

2019年4月28日から29日の2日間、高校野球の聖地“阪神甲子園球場”で開催された日本高等学校野球連盟・朝日新聞社が主催する標記の審判講習会に受講生として参加させていただきましたので、下記の通りご報告させていただきます。

記

1. 主催 公益財団法人 日本高等学校野球連盟
株式会社 朝日新聞社
2. 期 日 2019年4月28日（日）～29日（月） 2日間
3. 会 場 阪神甲子園球場
〒663-8152 兵庫県西宮市甲子園町1-82
4. 宿 舎 兵庫県立総合体育館
〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目16-8
5. 講 師 日本高等学校野球連盟審判委員
6. 受講生 48名（北海道2名、北海道以外の46都府県から各1名の46名）
7. 協力校 県や府の高野連から推薦された高校7校（28日3校、29日4校）



8. 概要

この時期としてはめずらしく、両日とも天候に恵まれ、阪神甲子園球場のグラウンドで行うことができました。

受講生は8人ずつ6班に分かれて、それぞれの班に班担当の講師が5～6人ついてくれます。私は3班（黄）でした。

講習会で行ったトレーニングや技術的な指導は、**高校野球審判の手引き**に書いてあるとおりなので割愛させていただきます。

全体を統括する日本高等学校野球連盟審判規則委員会の窪田哲之委員長は、「全国講習会は今年で59回目。今回が“平成最後の甲子園”となります。以前は伝達講習会という呼び名の講習会で、皆さんのスキルアップのためだけに開催しているのではなく、各都道府県を代表して参加している受講生がそれぞれの都道府県に帰った後、正しく伝達して頂くのが一番の目的です。必ず伝えてください。皆さんの背中や肩の上には各都道府県の看板を背負っているという意識で2日間臨んで頂きたい。」とのお話があり、少しプレッシャーを感じてのスタートとなりました。

講師の方々がまずはじめに我々受講生に徹底したのは、「**グラウンド内は常にかげ足**」ということです。「高校野球の審判委員としての基本でもあり原点でもある。手引きにも書いてあるので徹底してほしい。」と2日間ずっと言われ続けました。

「春・夏の甲子園大会の審判委員の動きをお手本にしてください。ダラダラと歩いている審判委員は1人もいないはず。常にかげ足。”もし歩いていたら、次の試合からグラウンドには立っていないというくらいの覚悟と意識でやっています。たまに、各都道府県の予選を視察に行くとタラタラとしている審判委員がいますがそういうことのないようにしてください。我々**高校野球にたずさわ**る**審判委員はグラウンドティーチャーとも**言われているので**高校生の模範人**となってください。」と説明を受けました。

また、補足として「簡単に言えば**歩かなければいいだけのこと。走っているか止まっているかのどちらかで、走る必要がないときは止まっていればいいだけのこと。一歩目から走る意識を持って動き、あとは止まることだけを意識してください。**」とも言われました。

フォーメーションのトレーニング中、3塁での説明を受けるために受講生が3塁周辺に集まったときに一部の受講生がコーチスボックスの中に入ってしまい注意を受けました。「**コーチスボックスの中には必要以上に入ったり横切ったりしてはいけません。**そこはベースコーチのお城です。コーチスボックス内はベンチ内と同じだと思ってグラウンド内では意識してください。公認野球規則のP131の**審判員に対する一般指示**の一番最初の方にも“**審判員はコーチスボックスの中に入ったりしてはならない**”と書いてあります。入ることはルールを適用する側である審判員自らが規則違反を犯していることになるので、必要のないときは入らない。そのかわりに、ベースコーチにはなるべく外に出ないようにしてもらおう。インニングとインニングの間のインターバル中も同じです。」と言われ、甲子園のレギュラー審判委員の方々の意識の高さをあらためて感じました。

基本的なジェスチャーのトレーニングでは、腕や指の角度、ホームランの時の腕の回し方なども細かくチェック頂きながら、大きな声ではっきりとわかりやすい形を追求致しました。「高校野球でスタンドからの応援が大きいと審判委員の声は聞こえにくくなるが、**大きな声でコール**することで**ジェスチャーも自然と大きくなり、説得力が**できるようになる。」とアドバイスも頂きました。

実戦的なトレーニングでは、ジャッジをするためのボールの追い方、どの位置で見るのがベターかなど細かく確認しました。走者の触塁の確認は覗き込んだり、見てたぞ！と身体を塁の方向に傾けて見るのではなく、首から上だけ（顔）を塁の方向にチラッと向けて見て、自然とプロのようにすればいいと言われました。

4人の審判委員で協議をして結論を出す場合や難しい規則の適用など、場内説明はなるべく規則書や手引きに書いてある言葉や用語を用いて説明できるように訓練して行ってほしいと問題を解決するための最善の方法についても向き合いました。

フォーメーションはクルーの連携なので他のアンパイア（クルーのメンバー）を失敗させないように目配り、気配りをする。これがフォーメーション。

失敗してしまったら必ず失敗を振り返る。振り返ることで失敗が経験になる。経験は財産になる。財産になれば失敗が失敗じゃなくなる。



今回が59回の全国講習会ではじめて取り入れたメニューだそうですが、グラウンドマナーについての講習もありました。グラウンドマナーについては昨夏の第100回選手権の決勝の球審を務められた堅田外司昭講師が担当いたしました。

「試合開始時の整列でホームベース付近へ向かう時、**4人の審判委員は心をひとつにして**、一体感をだして4人合わせて走っていきます。試合が終了して勝利校が校歌を歌い終え、審判委員が戻る時も4人の審判委員は気持ちと一緒にして戻ります。試合が終わってホッとしたところだが、最後まで一緒になって戻るのが大事。そして用具点検がある場合、担当のベンチへ行き次の試合のチームを迎える。ここまでが審判委員にとっての試合です。受講生の皆さん、できてますでしょうか。ぜひ帰って実戦ほしい。」

他にも、「試合前の挨拶を終えてグラウンドにボールや遺物が落ちてないか、フェンスの扉が開いていないか、芝生の濡れ具合等も確認しボールが外野に飛んだらボール交換が必要かどうかなどにも気を配る。ブルペンで投げる控え投手に、試合中の投手が投げるタイミングと同じタイミングでは投球はしないで試合を注視しよう！などの声を掛けたりブルペンの捕手が地面にマスクを置いていないか等、控え選手にも目を配る。また、雨が降ってきたと感じても、審判委員は空を見上げない。インング間に給水する場合もフェアグラウンド方向から目を離さない。試合中は塁に出た打者走者が保護具と一緒に手袋を渡したりしていないか、捕手がベンチの中（人目につかないところ）でファウルカップをつけているかなど様々なところにも目配り気配りをする。」などの説明を丁寧に受けました。

規則で確認した事項ですが、塁に走者がいる時にクラウチングスタイルからサインを見た後、上体が起き上がりセットに入らない動作については高校野球では腕の動きがともなわなければボークとはしないているが規則上は違反行為であり、他団体ではボークとなる動作であることから注意・指導は必要と言われました。

また、投手が走者のいないとき、突然モーションのスピードを上げて（変えて）投げることは高校野球ではクイックリターンピッチとしている。クイックリターン（走者がいないときのクイックピッチ）とクイックモーション（走者がいる時のいわゆるクイック）の違いを理解して区別してほしい。

夜に宿舎で行う座学では、重点指導事項や高校野球審判の手引きの変更点などの解説や甲子園から全国へ・・・
2019春の確認をしました。

高校野球審判手引きの巻頭 Next one に「審判委員は球児達の全力プレーに応えるため、唯一無二のタイミングで正確無比のジャッジを目指す。」と書いてあるとおり、ボークや妨害の宣告などはタイミングを逃してしまっ
ては説得力がなくなったりするのでタイミングにもこだわってジャッジしてほしいと言われました。

あとは書いてあるとおり、1. サイン盗み疑惑について、2. 投球を避けない行為について、3. 正しい捕手に位置について、4. 投手のセットポジションでの完全静止やグラブ、ミットのしめ紐の長さについて、です。

9. 所感

今回、はじめて阪神甲子園球場で講習会を受けることとなり、当日を迎えるまで不安な気持ちではありましたが、講師の方々の熱心な指導でわかりやすく優しく教えていただいたことや、暖かく晴れた天候にも恵まれ、高校時代あこがれていた甲子園の黒土や芝生の上で目一杯走りまわり、グラウンドから見る景色を目に焼きつけたりと十分に甲子園を満喫させて頂き、有意義な2日間を過ごすことができました。

今回の講習会の受講をもとにさらに研鑽を積み、第101回を迎える選手権や秋春の大会でも実践できるように努力していきたいと思います。

講習会の中でずっと言われ続けたのが、「かけ足や立ち姿、身だしなみ」です。これらは技術とは関係なく意識すれば誰でも自分でコントロールできる部分です。高校野球の審判委員は高校生へ模範とならなければならないのでこれらの誰でも自分でコントロールできる部分をおろそかにせず、社会人としての規律等も守り、誰からも信頼される人間、アンパイアを目指したいと思います。そして、背中から今回の講習会の成果を伝えていきたいと思います。

最後に今回春の大会が行われている大変な期間に甲子園球場へ立たせていただいたことは、多くの審判委員の仲間の支えと、ご支援してくださいました新潟県高等学校野球連盟各関係者各位のおかげだと感謝しております。この場をお借りしてお礼を申し上げ報告とさせていただきます。ありがとうございました。

